

## 家畜保健衛生所における防疫動線の構築

西部家畜保健衛生所 いとうゆうき 伊藤侑起

### 【背景と目的】

平成31年に本県で豚熱が発生したことを受け、これまで行ってきた車両消毒等の対策だけでなく、農場へ訪問する家畜防疫員（以下、職員）による交差汚染防止を徹底するため、所内の防疫動線の可視化が行われた。

近年、全国的に豚熱や高病原性鳥インフルエンザの発生が増え、職員による農場間の交差汚染防止の更なる徹底を実施するため、家畜保健衛生所（以下、当所）におけるより明確化した防疫動線の構築を行った。

### 【課題】

- 1 従来の防疫動線：当所は民家が近く敷地が狭いため、一方通行の動線が構築しにくい状況であった（写真1）。
- 2 衛生対策の方法：汚染エリアと非汚染エリアの境界を消石灰で区分けしていたが、近隣民家への配慮として消石灰の飛散防止対策が重要であった（写真1）。



写真1 当所 航空写真

- 3 病性鑑定実施方法の検討：当所で病性鑑定を実施する際、病性鑑定用検体搬入時の動線及び解剖実施場所が明確化されていなかった。

なお、今年度は大きな施設工事があり、一部の場所が使用できず、利用できる場所の限定、近くの屋外に水栓がない等消毒に問題が生じた。

## 【対応】

- 1 新設した防疫動線：汚染エリアと非汚染エリアの境界をコーンやロープで明確にし、交差汚染防止に重要である靴を農場専用と所内専用に分け、靴交換場所を新設することで、消石灰散布に頼らない近隣民家へ配慮した対応を構築した（写真2、3）。



写真2 境界の明確化



写真3 靴交換場所の新設

- 2 衛生対策の改善：通勤時及び農場訪問時の人員動線、公用車及び自家用車の車両動線を明確化し、所内の認識力向上に繋げた。
- 3 病性鑑定実施体制の確認：当所で、病性鑑定検査を実施する場合の検査材料の搬入方法を書面化し、剖検実施場所の境界を明確化した（図1）。
- 4 職員への共通認識の構築：所内での意見交換を随時行い、最適な防疫動線の構築に職員全員で取り組んだ（写真4）。

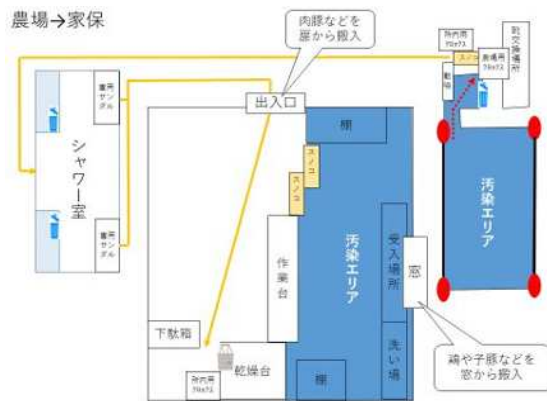


図1 剖検実施場所のマニュアル化



写真4 定期的な検討会

- 5 臨時的な動線：施設工事に関しては消毒場所を変更し、消毒実施に関しては、近隣住民へ配慮するため、フェンスへのブルーシートの設置及び消毒エリアを離すことで消毒液の飛散防止を実施した（写真5）。



写真5 消毒液の飛散防止措置

- 6 現在の動線：施設工事により駐車スペースが広がったことを受け、新設した動線の車両消毒場所を改善し、汚染エリアと非汚染エリアの境界をより明確化した（写真6、7）。



写真6 改善した境界



写真7 改善した靴交換場所

#### 【今後の展望】

引き続き、所内で検討を行い、交差汚染防止対策を職員全員で確認し、防疫動線の明確化に努める。